

音楽科学習指導案

北広島町立芸北中学校

教諭 野々山 真理

1 概要

日時：平成17年11月 9日（水） 2校時 9：40～10：30

対象：第3学年（男子20名，女子5名）

場所：芸北中学校音楽室

2 題材名 重ねて楽しむ・バロック音楽の響き

3 学習指導要領との関連

第2・3学年 A 表現（1）エ 声部の役割を生かし，全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること。

キ 音色，リズム，旋律，和声を含む音と音とのかかわり合い，形式などの働きを理解して表現を工夫すること。

B 鑑賞（1）ア 声や楽器の音色，リズム，旋律，和声を含む音と音とのかかわり合い，形式などの働きとそれらによって生み出される曲想との関わりを理解して，楽曲全体を味わって聴くこと。

4 題材の指導目標

多声的な音の重なりや響きの美しさ，おもしろさを味わう。

音の重なりや響きにあう旋律をつくり，合奏する。

バロック音楽の特徴を理解し，味わって聴く。

5 題材設定の趣旨

(1) 題材観

バロック音楽は，現在でも様々な場面で聴く機会が多く，なじみのある音楽である。ルネサンス期の音楽に比べ，強弱の対比による動的なおもしろさや，多声的な音の重なりによるおもしろさがある。この時代に近代和声の基礎である調性が確立しており，音の重なりによる響きの美しさにあふれた曲が多い。楽器の改良と演奏技術の向上から器楽曲が発達し，すぐれた器楽曲，協奏曲が作られている。本題材では，「音の重なりと響き」に焦点をあて，器楽・鑑賞・創作の活動を関連づけて進めていくこととした。

(2) 生徒観

生徒たちは明るく元氣よく学習に取り組んでいる。歌唱にも器楽にも積極的に取り組むことができ，音楽への関心・意欲は比較的高い。これまでにリコーダーやギターを使った合奏に取り組んでおり，基本的な奏法は身につけている。しかし，耳で覚えて歌唱・演奏することが多く，「楽譜を読む」ということはあまりできていない。苦手とする生徒も多い。鑑賞では，様々な音楽に興味を持って聴こうとしているが，音楽の諸要素と曲想のかかわりや楽曲の構成について理解して味わうところまでは至っていない。

(3) 指導観

指導にあたっては，一つの曲を器楽・鑑賞・創作の活動で扱うことで構成や特徴をより深く理解し，多声的な音の重なりによる響きの美しさ，おもしろさを感じとらせたい。表現活動では，どのフレーズを重ねるかを工夫することで，旋律としての流れや響きの美しさに気づかせ，意識して表現させたい。今回は unit 活動としてリコーダーの練習と合わせて読符指導をおこない，リコーダーの技能と読譜力を高めていきたい。楽譜が読める・わかるようになることで，意欲を高め，豊かに表現する喜びを味わわせたい。表現活動で感じた美しさ，おもしろさをもとに味わって聴く力を高めていきたい。

6 主な教材

- (1) 教材名 「カノン」 バッヘルベル作曲
「カンタータ第140番より コラール」
「ブランデンブルグ協奏曲第2番」 バッハ作曲

(2) 教材について

「カノン」 ヨハン・バッヘルベル（1653～1706）作曲 [A(1)エ，キ B(1)ア]

バロック時代の楽曲で，和声進行が通奏低音によってくり返されるうえに，美しく変化に富んだ旋律が次々と演奏されてい

く。BGMなどでもよく使われ、生徒にはなじみやすいと思われる。

リコーダーアンサンブル用の編曲では2分音符によるフレーズから4分音符、8分音符、16分音符によるフレーズまで変化に富んでおり、また一定の和声進行によるカノン形式のため、一部のフレーズだけを合奏しても、曲として成り立つことができる。そのことから、リズム学習、リコーダーの練習教材としても使うことができると考えた。本題材ではunit活動の教材として使うとともに、器楽合奏、鑑賞、創作の教材としても扱う。

「**カンタータ第140番より コラール**」 ヨハン・セバスチャン・バッハ(1685~1750)作曲 [B(1)ア]

本来はテノール独唱、弦楽合奏と通奏低音のためのもので、弦楽器によるオブリガートと低音を背景にコラール旋律が朗々とした響きを聞かせる美しい曲である。低音とオブリガード、コラール旋律がはっきりしており、声部の重なりが聴き取りやすいと考えた。ここではトランペット独奏による演奏を鑑賞する。

「**ブランデンブルグ協奏曲 第2番**」 ヨハン・セバスチャン・バッハ(1685~1750)作曲 [B(1)ア]

バロック時代の楽曲で原題が「種々の楽器による6つの協奏曲」とあるように、様々な楽器を独奏楽器としたバロック協奏曲である。第2番はトランペット、リコーダー、オーボエ、ヴァイオリンといったこの時代を代表する楽器が独奏楽器となっており、4つの独奏楽器がそれぞれに活躍しながら美しい響きをきかせている。

それぞれの独奏楽器と合奏群との旋律の重なり、響きの美しさを感じることができると考えた。また、器楽の発達についてもふれ、奏法や音色にも注目させたい。

7 指導の工夫

unit活動では、音符・休符を確認し、リズムをとりながら楽譜を読むことを継続して行い、読譜力をのばしていく。unit活動で「カノン」のフレーズを練習することで、次の表現活動への意欲づけを高めていく。

表現活動では、グループごとに重ね方を工夫して発表することで、様々なフレーズの重なりから生まれる響きのおもしろさ、美しさを感じとらせ、多声的な重なりについて理解させる。

鑑賞活動では、表現活動で感じとったことをもとに、バロック音楽の美しさを味わわせる。

創作活動ではこれまでの学習を生かし、和声について理解し、作って表現する喜びを感じとらせていく。

8 指導計画(5時間扱い)

unit活動「リコーダーマスターへの道」(2学期より継続して扱う)

- ・ カノンのフレーズを使って段階的に読譜力とリコーダー演奏の技能を伸ばす。

第1次「フレーズを重ねて演奏しよう」(2時間)

- ・ フレーズをつなげて合奏し、響きを味わわせる。
- ・ グループごとにフレーズを重ねてアンサンブルをさせる。

第2次「重なる・響く バロックの美しさ」(1時間)

- ・ バロック音楽の特徴を感じとり、その美しさ、おもしろさを味わわせる。
- ・ 曲の構成や音色に注目して聴くようにさせる。

第3次「オリジナルカノンづくり」(2時間)

- ・ カノンのフレーズ、和声進行をもとに旋律を創作させる。
- ・ 創作したメロディーをあわせて発表し、多声的な音楽のおもしろさ、美しさを感じとらせる。

9 評価計画

評価規準

- ア 多声的な音楽に関心を持ち、進んで活動しようとしている（音楽への関心・意欲・態度）
- イ 音の重なりと響きが生み出すおもしろさ、美しさを感じとっている（音楽的な感受や表現の工夫）
- ウ 楽譜を読み、曲にあった音色や奏法を生かして演奏することができる。
和声進行をもとに旋律をつくることができる（表現の技能）
- エ 多声音楽における音の重なりと響きを聴き取り、楽曲全体を味わって聴くことができる（鑑賞の能力）

題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	多声的な音楽に関心を持ち、進んで活動しようとしている。	音の重なりと響きが生み出すおもしろさ、美しさを感じとっている。	楽譜を読み、曲にあった音色や奏法を生かして演奏する。 和声進行をもとに旋律をつくる。	多声音楽における音の重なりと響きを聴き取り、楽曲全体を味わって聴く。
学習活動における具体的評価規準	楽曲に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。 音の重なり、響きに関心を持ち、よりよい表現をしようとしている。	音の重なりや響きを感じとり、その美しさの要素について考えながら聴こうとしている。 音の重なりや響きを聴き取り、表現の工夫に生かそうとしている。 音の重なりや響きに注目してグループの発表を聴くことができる。	楽譜を読み、曲にあった音色、奏法で演奏している。 全体の響きに気をつけて合奏している。 曲想とハーモニーにふさわしい旋律をつくっている。	バロック音楽の特徴を聴きとっている。

【具体的評価規準におけるCと判断される状況への働きかけ】

働きかけ	楽曲が使われている例を挙げるなどして、興味を持たせる。 ポイントを具体的に示し、注目して聴かせる。	他生徒の気づきを投げかけ、ポイントに気付かせる。 何点が比べてどれがよりよいかを考えさせる。 各グループの工夫した点に注目させ、響きがよかったかを気づきとして書かせる。	自分にあったパートを選ばせる。 リズムを正確にとり、他パートを聴いて演奏させる。 簡単な例から、何力所か組み合わせたり、音を変えたりしてつくらせる。	ポイントを具体的に示して意識させる。
------	--	--	--	--------------------

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

キーワード	吹けるフレーズを増やそうと積極的に練習にとりくんでいる。 よりよい表現を目指し、グループの中心となって取り組んでいる。	どのような音の重なりや響きが美しいかに気付き、発表・記述している 音の重なり的美しさ、おもしろさを意識した表現の工夫をしている。 どういう音の重なりや響きがよかったかを具体的にあげている。	曲にあった奏法で全体にあわせて演奏している。 全体の響きの中での強弱やバランスを考えて表現している。 他パートとの関わりやハーモニーを考えて旋律をつくっている。	バロック音楽の特徴を聴き取り、発表・記述している。
-------	--	--	--	---------------------------

10 指導と評価の計画 (全5時間)

次	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点	具体の 評価規準	評価方法
Unit 活動	読譜力をのばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・カノンのフレーズを使ってリズム学習をする。 ・リコーダーでフレーズごとに演奏できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音符の長さを理解して練習できるようにさせる。 ・個人課題練習にし、吹けるようになったかどうかチェックする。 ・難しい生徒には個別指導をする。 	ア ー ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏聴取 ・行動観察
第1次 (2時間)	音の重なりと響きを感じながら合奏する。 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「カノン」を聴く。 ・フレーズをつなげて合奏する。 ・カノンの形式について理解する。 ・カノンの形式で一部を合奏する。 ・グループごとに何フレーズかをつなげて、カノンを演奏できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏への意欲を高める。 ・総奏させる。 ・演奏と楽譜を比べ、どのようなあわせ方をしているかに気付かせる。 ・曲の構成を理解させる。 ・フレーズの重ね方を工夫させる。 ・音の重なり観点から「聴いてほしいポイント」をつくらせる。 	イ ー ア	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート
	音の重なりや響きを意識して表現を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表 ・よかったところ、工夫されていたところを発表しあう。 ・「カノン」を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聴いてほしいポイント」を発表させ、音の重なり、響きに注目して聴き合わせる。 ・多声的な重なり観点から発表させる。 ・縦、横の重なりによる響きのおもしろさについておさえる。 ・低音パートの役割を理解する。 ・音の重なりや響きに注目させる。 	イ ー ウ ー エ	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏聴取 ・ワークシート ・行動観察
第2次 (1時間)	バロック音楽の特徴を聴き取り、味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カンタータ第140番」を聴き、気付いたことを発表させる。 ・バロック音楽について理解する。 ・「ブランデンブルグ協奏曲」を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声部の重なりや独奏楽器に気付かせる。 ・特徴や、時代背景についておさえる。 ・楽器の音色や曲の構成に注目させる。 	イ ー エ	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察
第3次 (2時間)	「音の重なりや響き」を意識して旋律をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「カノン」の和声をもとに旋律をつくる。 ・グループごとにつくったフレーズをつなげてオリジナルのカノンを作りあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和音の構成音を使ってつくらせ、そこから工夫させる。 ・全員のフレーズが入るようにする。 ・重ね方の工夫をさせる。 	イ ー ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察
	オリジナルの「カノン」を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習 ・グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カノンの形で演奏できるようにする。 ・音の重なりや響きに注目して聴きあう。 ・工夫されていたところ、よかったところを出しあう。 	ウ ー エ	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏聴取 ・ワークシート

11 本時の学習（第1次 第1時）

本時の目標

- ・音の重なりを意識したフレーズの重ね方を工夫する

本時の評価規準

- ・音の重なりや響きを聴きとり、表現の工夫に生かそうとしている（イー）
- ・音の重なりや響きに関心を持ち、よりよい表現をしようとしている（アー）

学習指導の展開

学習内容と主な学習活動	指導上の留意点（学習活動における具体的評価規準） （評価方法）
1. 「カノン」を聴く。 2. unit 活動 ・リコーダーの個人練習 ・全体で a～f までを総奏する。 3. 曲の構成を理解する。 ・どのように演奏されているか考える。 ・どこまで演奏したら次のパートが始まっているかを理解する。 ・a～f までを合奏する。 ・終わりをどうすればいいかを発表する。 ・終わりを合わせて a～f までを合奏する。	本時の学習の雰囲気ができるようにする。 間違えても止まらずに吹くようにする。 カノンの形式（ずれて始まる：フレーズを重ねている）に気づかせる。 1フレーズごとに始まっていることを確認し、どう合奏するかを板書する。 最後はそろえて音をのばして終わることを確認する。 お互いに聴き合いながら合奏できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">フレーズを重ねて合奏しよう</div>	
4. グループごとにフレーズの重ね方を考える。 ・使ったらいいフレーズ、重ねたらいいフレーズを考える。 ・どのフレーズを使うか、どう重ねるかを話し合う。 ・ワークシートに演奏順、パート、工夫した点を記入する。 ・グループごとに練習する。	合奏の形を確認する。 いくつか例を聞かせ、どういうところがよいかを考えさせる。 例を参考に重ね方を工夫させる。 （イー、アー） それぞれの力を配慮してパートを決めさせる。 「この重なりがいいだろう」というところをつくらせる。
5. 次時の学習内容を知る。	グループごとに発表することを伝える。

【具体的評価規準におけるAと判断するキーワード】

- イー 音の重なりのおもしろさを意識して、フレーズの重ね方を工夫しようとしている。
 アー よりよい表現を目指し、グループの中心となつてとりくんでいる。

ゆがんでる？

バロック音楽の魅力

バロック音楽といわれる時代 17世紀～18世紀中頃
「バロック」は「ゆがんだ、不揃いな真珠」という意味の言葉から生まれた。それまで（ルネサンス）の規律正しい均整のとれた芸術に対して、規律よりも**装飾や動静の対比・劇的さを大切に**したため、皮肉ってこう呼ばれた。



でも、その**表情豊かな特徴**から今では肯定的にとらえられているんだな。

特徴

ブランデンブルク協奏曲 第2番 J.S.バッハ 作曲

発表を聴いて

名前

重ね方のよかったところを で囲もう

1班 最後のPQの演奏を聴いてほしい

パート1	A	B	C	D	E	F	G	H	...
パート2		A	C	E	G	B	D	G	...
パート3			A	B	A	G	A	Q	...
パート4				A	B	A	A	P	...

どうよかったか・気づき

2班 QとPのハーモニー

パート1	A	E	G	H	I	J	P	Q	...
パート2		A	K	L	M	N	Q	P	...
パート3			A	B	C	D	E	F	...
パート4				A	B	C	B	A	...
パート5					A	M	N	O	...

どうよかったか・気づき

3班 がEにはいってから注目

パート1	A	B	C	D	E	F	G	H	...
パート2		A	G	H	I	J	K	L	...
パート3			A	B	C	P	I	J	...
パート4				A	B	C	D	G	...

どうよかったか・気づき

4班 最後らへん

パート1	A	B	E	G	H	L	P	Q
パート2		A	B	F	G	H	I	J
パート3			A	C	A	I	B	A
パート4				A	B	A	C	M

どうよかったか・気づき

5班 低いところと高い音のパート ..

パート1	A	B	I	M	N	O	K	D
パート2		A	L	K	E	F	P	N
パート3			A	G	H	A	G	H
パート4				A	B	M	N	O

どうよかったか・気づき

6班 最後の前に全員でAを吹く。 と のハーモニー ..

パート1	A	B	C	D	G	H	A	Q
パート2		A	B	C	D	G	A	P
パート3			A	B	C	D	A	A
パート4				A	B	C	A	A

どうよかったか・気づき

全体を通しての気づき

めざせ！リコーダーマスター

名前

- ・息を入れすぎずやわらかい音で吹こう
- ・間違えても止まらない！

	日付	チェック
A		
B		
C		
D		
E		
F		
G		
H		



初心者脱出

す
こ
れ
が
で
き
た
ら

ま
だ
ま
だ
こ
れ
か
ら

	日付	チェック
I		
J		
K		
L		
M		
N		
O		
P		
Q		

リコーダーマスター
就任！

やったね！



フレーズを重ねて合奏しよう

カッコよく美しくなるように重ね方を工夫しよう

() 班

- 合奏のしかた ・どのパートもAで始める
- ・カノンのように一フレーズごとに加わる
- ・最後は全員で音をのばして終わる

名前								最後の音
パート1()	A							
パート2()		A						
パート3()			A					
パート4()				A				

ココがいいから注目して聴いてほしい (工夫したところ)

フレーズを重ねて合奏しよう



美しい演奏を
工夫して
くれたまえ

名前

・フレーズの重ね方を考えよう

使ったらいいと思うフレーズ ()

重ねたらいいと思うフレーズ ()

自分のパートに

演奏するフレーズ

最後の音

パート1	A						
パート2		A					
パート3			A				
パート4				A			

自己評価 (月 日)

- | | | | |
|--------------------------|---|---|---|
| ・まわりを聴きながら合奏することができた | A | B | C |
| ・フレーズに注目して「カノン」を聴くことができた | A | B | C |
| ・フレーズの重ね方を工夫できた | A | B | C |
| ・班で協力してとりくめた | A | B | C |

合奏〔発表〕のお約束

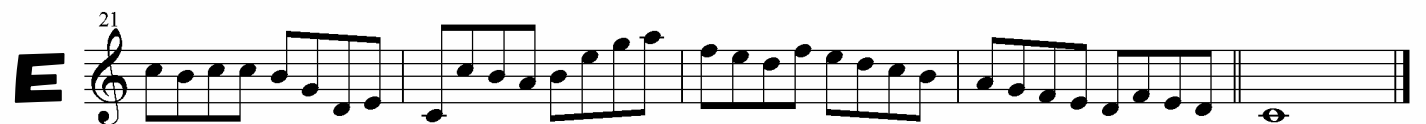
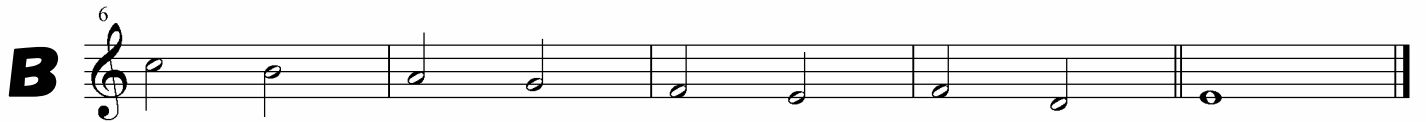
1. 速さ、吹き方を合わせよう
2. 間違えても止まらない、あきらめない
3. 仲間の音をよく聴こう

発表を終えて

自己評価 (月 日)

- | | | | |
|-----------------------|---|---|---|
| ・速さを合わせて最後まで演奏できた | A | B | C |
| ・まわりを聴きながら演奏できた | A | B | C |
| ・フレーズの重なり注目して聴くことができた | A | B | C |
| ・班で協力してとりくめた | A | B | C |

めざせ！リコーダーマスター



I ⁴¹ 

J ⁴⁶ 

K ⁵¹ 

⁵⁶ 

M ⁶¹ 

N ⁶⁶ 

O ⁷¹ 

P ⁷⁶ 

⁷⁸ 

Q ⁸¹ 

⁸³ 